

社会教育委員会 会議概要

- 1 審議会名 第4期第11回社会教育委員会
- 2 日 時 平成26年7月8日 午前9時30分から午前11時まで
- 3 会 場 教育委員会第2庁舎会議室
- 4 出席者 安井幸次委員 春原尚江委員 清水幾子委員 西田力委員 竹田貴一委員
齋山永子委員 関和幸委員 宮島渡委員 山浦美幸委員 甲田圭吾委員
- 5 市側出席者 岩倉生涯学習課長、宮澤生涯学習係長、吉田生涯学習係主査
- 6 公開・非公開等の別 公開
- 7 傍聴者 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 26年7月9日

協 議 事 項 等

- 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 会議事項
- (1) 提言書の提出内容について
- (事務局) 提言書の内容について事務局から説明。
- (委員) 前回の提言書にいくつか項目が加わっているが、学校にとって大変ありがたい内容が盛り込まれている。学校現場としては、困っていることがあったとしても、なかなか地域の方に声をかけにくい状況がある。この提言書にあるように地域や公民館が積極的に学校と関わるしくみが実現できれば、とても素晴らしい結果につながると思う。
- (委員) 学校現場では「地域から声をかけてもらえれば相談できる」ということだが、具体的にはどういうことか。
- (委員) 学校側とすれば、地域の方をお願いしたいことはたくさんある。しかし、謝礼を支払う余裕もないため、申し訳ない気持ちが先立ってしまい、二の足を踏んでしまうのが実情である。
- (委員) ボランティアの立場からすれば、謝礼を求めて活動している方はごく少数だと思われる。
- (委員) お金のことより、むしろケガをした時のことが心配である。保険はどうなっているのか、ボランティアがどこまで責任を持つのかなど。
- (委員) 謝礼ひとつとっても、学校とボランティアの間でお互いに対する認識のズレがある。
- (委員) その辺の認識の違いを回避してうまく活動していくためには、公民館が間に入る必要がある。
- (委員) ただ、学校現場において、先生に負担がかかるという声があるのは確か。
- (委員) 学校のニーズと地域の人材をうまくマッチングさせるために、全市的な人材のデータベース化が将来的には必要になると考える。
- (委員) 「土曜学習」については、地域が主体となることでよいのか。学校側からアプローチすると、学校週5日制ではなくなってしまう。その辺りのスタンスをはっきりさせてほしい。
- (事務局) 学校の負担がないよう、地域主導で進める内容となっている。
- (委員) 提言書の一部分に不適切な表現が見受けられるため、手直しして欲しい。
- (委員) 公民館によって地域内にある学校数に差異があるため、コーディネーターの配置等については今後配慮が必要と考える。
- (全委員) 提言書については、概ねこの内容でよいが、一部表現を変更するため代表と事務局とで最終調整をし、完成していただきたい。
- (2) その他
- ・今後の会議の日程等確認
- 4 その他
- 8月末で任期切れとなる三期目の委員より、行政視察など委員の交流の場を今後も大事にしていてもらいたいとの御意見をいただく。